日本建築学会九州支部研究報告
第 51 号　2012 年 3 月

韓国忠州市で開催された国際ワークショップでの差異の受容過程と成果の検証

-その１　日韓国際都市・建築デザインワークショップ 2011 の概要-

正会員○辻原万規彦[*1]　準会員　江藤　紅音[*2]
正会員　加藤　浩司[*3]

７．都市計画-９．教育と資格　　都市計画
ワークショップ，市場，違い，コミュニケーション，プレゼンテーション

１．はじめに

一連の本報告では，国際ワークショップ[1)] での活動内容を報告し，その成果を検証することを試みる。

対象となる国際ワークショップは，韓国で開催され，日本と韓国の違いをはじめ様々な「違い」を経験する貴重な機会である。例えば，日本と韓国での「まちづくり」に対する考え方は大きく異なり[2)]，同じ日本でも，関東圏の国立大学の大学院生，九州の公立大学の学部４年生（大学院生も含む），同じく九州の高等専門学校の卒業生（学部３年生相当）のように異なる背景をもつ学生が参加した。さらに，これらの参加者間では，都市計画に関する専門知識の有無についても差異があり，ワークショップへの参加経験についても違いがあった。また，ワークショップ期間中，参加者は６チームに分かれて作業を進めたが，作業の対象，それぞれのチームを担当したチューター（日本側と韓国側のチューターの違いやチューターのもつ背景の違いも含めて）なども異なっていた。これらの様々な「違い」を経験することで参加者が得た「もの」を明らかにして報告し，今後の都市計画教育に資することを目指す。

「その１」では，対象ワークショップの全体像を示すことを考え，ワークショップの概要や期間中の活動と提案内容の概要などを報告する。続く「その２」では，ワークショップ期間中に６つのチームに分かれて行われたチーム作業とその提案の具体例として，「チーム２」の取り組みを報告する。最後の「その３」では，熊本県立大学と有明工業高等専門学校関係の参加者のワークショップへの準備過程を紹介し，ワークショップ終了後に行ったアンケート調査から学生にとってのワークショップ参加意義と課題を検討する。

２．ワークショップの概要

表１に，対象ワークショップの概要を示す。

ホスト校である忠州大学校建築学科は５年制のプログラムであり，今回の参加者は４年生６名，５年生 12 名であった。また，千葉大学大学院からの参加者は博士前期課程１年生 11 名，博士前期課程２年生１名，博士後期課程１年生１名，熊本県立大学からの参加者は学部４年生６名，博士前期課程１名であった。有明工業高等専門学校関係の参加者は卒業後他大学の３年生に編入した学生２名，専攻科生１名であった。

各チームに１名ないし２名配置されたチューターは，忠州大学校３名（いずれも非常勤講師），千葉大学大学院２名（教授，助教），熊本県立大学１名（准教授），有明工業高等専門学校１名（准教授）であった。

また，このワークショップは，ディレクター１名，コーディネーター２名（いずれも忠州大学校）のほか，

表１　対象ワークショップの概要

名称	日韓国際都市・建築デザインワークショップ 2011 （International Urban and Architectural Design Workshop 2011 in Chungju）
主催	・国立忠州大学校建設交通学部建築学科 （Department of Architecture, College of Construction and Transportation Engineering, Chungju National University） ・千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻 ・熊本県立大学環境共生学部居住環境学科 ・有明工業高等専門学校建築学科
テーマ	在来市場　忠州市の旧中心市街地の再生 （Traditional Market “Urban Rehabilitation of the Old Downtown in Chungju”）
対象地	忠州市旧市街地に位置して隣接する６ヶ所の市場（Gong-seol Market（ゴンソルシザン），Mu-hak Market（ムハクシザン），Pungmull Market（プンムルシザン），Gwan-ah-gol Market（クァンアゴルシザン），Jung-ang Market（ジュンアンシザン），Ja-yu Market（ザユシザン））
参加者	・学生 41 名（日本：22 名，韓国：18 名，中国：１名） ・チューター７名（日本：４名，韓国：３名）
期間	2011 年 8 月 11 日～15 日
参加費	１人当たり 150,000 ウォン（約 11,500 円，宿泊費・食費・資料代・T シャツ代含む）

Result Verification of the Participation in the International Workshop with Acceptance of Various Differences
-Part 1 Outline of International Urban and Architectural Design Workshop 2011 in Chungju-

TSUJIHARA Makihiko, ETO Akane and KATO Koji

忠州大学校のスタッフ，忠州大学校の学生スタッフによって運営され，支援された。

なお，ワークショップ会場となった国立忠州大学校は，1914 年に設立された清州慈恵医院助産部・看護学校の流れを汲み，1993 年に忠州産業大学校として開学した。1999 年に忠州大学校と改称され，現在は，建設交通学部など 7 学部を持つ総合大学である[3)]。

３．忠州市の在来市場とワークショップのテーマ[4)]

ワークショップが開催された忠州市は，大韓民国の中部に位置する忠清北道の北部に位置し，忠清北道の道庁所在地の清州市に続く道内第 2 の都市である。面積は約 984㎢，人口は約 21 万人（2010 年）である。忠州市は，忠州川と校峴川の間に位置するかつての忠州邑城を中心として中心市街地が形成された。しかし，今日では，その北側に市庁舎が，西側に忠州駅が位置するなどスプロール化が進み，旧中心市街地の空洞化が進んでいる。また，2001 年末に，大型小売店であるＥマートとロッテマートがオープンし，旧中心市街地に形成された商業地域（ワークショップで対象とした在来市場を含む）は大きな影響を受けた。

このような背景の下で，ワークショップのテーマは，「在来市場　忠州市の旧中心市街地の再生（Traditional Market “Urban Rehabilitation of the Old Downtown in Chungju”）」と設定された。このテーマの下に，参加者には，産業構造の変化に伴う都市構造の変化の流れを理解し，衰退した旧都心を回復させ，健全な都市空間とアーバニティを創り出すための提案が求められた。

図１にワークショップで対象とした６ヶ所の在来市場の位置関係を示す。韓国における在来市場の定義はいくつかあるが，総じて 20 ないし 30 年以上前から続く常設の定期市場とされていることが多い[5)]。ただし，忠州市の場合は，日本の商店街の印象に近く，アーケードをもつものも多い[6)]。

４．ワークショップ期間中の活動と提案内容

（１）ワークショップ中のスケジュール

表２に，当初示されたワークショップ期間中（８月 10 日～15 日）のスケジュールを示す。なお，開会式，中間発表会ならびに最終発表会では，日韓/韓日の通訳があったが，それ以外は，基本的に通訳はなかった。

また，熊本県立大学と有明工業高等専門学校関係の学生と引率の教員は，スケジュールの都合上，11 日の 10:30 頃からワークショップに合流した。

（２）ワークショップ期間中の活動

ワークショップ期間中は，参加学生とチューターは共に，忠州市郊外に立地する忠州大学校キャンパス内の寮（Jungwon Dormitory）に入り，活動した。また，ワークショップでは６チームに分かれて活動したが，それぞれにチームに作業スペースとしてキャンパス内の Central Laboratory 棟５階にスタジオが割り当てられた。各チームには，プリンタやヒートカッターなどのほか，スチレンボードなどのプレゼンテーション用もしくは模型用材料，各種文具類などが提供された。なお，期間中の食事は，基本的には，決まった時間に提供される寮の食堂でとることになっていた。

ワークショップの進行は，実際には，**表２**のスケジュール通りではなく，例えば，中間発表会前の夕食や最終発表会前の朝食は，各チームともとれていない。最終発表会は 14 時開始であり，そのまま夕食を兼ねた

図１　ワークショップで対象とされた在来市場[7)]

表２　ワークショップ中のスケジュール[7)]

	10 日	11 日	12 日	13 日	14 日	15 日
08～09		朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
午前		各チームでの作業	現地訪問	各チームでの作業	各チームでの作業	寮からの退室
12～13		昼食	昼食	昼食	昼食	
午後		開会式/チューターの講演	各チームでの作業	各チームでの作業	最終発表会	
18～19			夕食	夕食	夕食	
19～20	寮への入室	夕食	中間発表会/中間パーティー	各チームでの作業	今後の課題の討論/最終パーティー	
夜		各チームでの作業				

最終パーティーとなって，今後の課題の討論は行われなかった。また，当初のスケジュールにはなかったものの，13 日午前にはコーディネーターによるチューター・ミーティングが行われ，意見が交換された。

８月 10 日の夜に，千葉大学大学院と忠州大学校の参加者が寮へ入った。その後，チームによっては個別に現地視察を行い，チーム作業を始めたが，熊本県立大学と有明工業高等専門学校関係の参加者は，加わることができていない。

翌８月 11 日午前には，熊本県立大学と有明工業高等専門学校関係の参加者も合流し，前夜の作業も踏まえ，チューターも含めて参加者全員での作業を開始した。

午後には，スタジオのある棟とは別の University Administration 棟のセミナー室１で，開会式が行われた。開会式の後，コーディネーターとチューターによって１人あたり約 30〜40 分間の講演が行われた。講演のタイトルは，**表３**の通りである。なお，チーム１のチューターによる講演は都合により行われなかった。その後，各チームのメンバーの紹介があり，ここで参加者全員の顔合わせが行われた。

８月 12 日午前には，公式には唯一の現地視察・調査が行われた。忠州大学校キャンパスと旧市街地は約５㎞離れているので，大学所有のバス２台に分乗しての視察であった。現地では，チーム毎に分かれて，視察，スケッチや写真撮影，聞き取り調査，寸法の採寸，温度測定などを行った。

午後は夜からの中間発表会を控え，チームでの作業がそれぞれのスタジオで行われた。ほとんどの参加者は，自分のパソコンを持参しており，パソコンを使っての作業も多くなった。

表３　コーディネーターとチューターによる講演[7)]

講師名	講演タイトル
Lee. Myung Jae（コーディネーター，忠州大学校）	Theme of International Urban and Architectural Design Workshop 2011
北原理雄（チーム２，千葉大学大学院）	Designing the Life with People 2011
加藤浩司（チーム４，有明工業高等専門学校）	八女福島における歴史的な町並みを活かしたまちづくり
辻原万規彦（チーム６，熊本県立大学）	都市の半戸外空間の環境調整
Kim, Young Hun（チーム３，忠州大学校）	Urban Regeneration of Urban Maker Area（ソウル恩平地区弘済均衡発展促進地区の整備事業）
Ryu, Chul（チーム５，忠州大学校）	伝統市場，新しい装いに！

中間発表会は，８月 12 日の 19:00 から，各チームのスタジオを巡回し，プレゼンテーションボードや模型などを取り囲んで議論する形式で行われた。この段階でのプレゼンテーションボードは，手書きで作成されたものが多く，模型については韓国側チューターが担当するチームが用意している割合が高かった。各チームの持ち時間は 30 分で，提案の発表の後に，ディレクター，コーディネーター，チューター，ゲストクリティーク（忠州大学校都市工学部・教授）からの質疑応答が行われ，23:00 頃に終了した。参加者は，その後，会場を移して，中間パーティーに参加し，発表会での反省や今後の課題を話しあうと共に，親睦を深めた。

８月 13 日は，終日，チームでの作業日であった。前日の中間発表会での指摘を踏まえて作業が始まった。この頃になると，チーム内での意思疎通もかなり円滑に行われていたようで，お菓子などを持ち込みながら，また夜には夜食を取りながら，夜遅くまで作業が続けられた。チューター達は，これまでと同様に適宜相談にのり，助言を行っていたが，チームへの関わり方には，かなりの違いがあった[8)]。

８月 14 日午前も，チームでの作業が続けられた。多くの参加者は前日からスタジオで作業を続けていたようであった。この段階で，最終的な成果物についての情報が錯綜し，一部に混乱も見られた[9)]。なお，昼食は各スタジオに軽食が配布され，作業を続けながら，昼食をとることになった。

最終発表会は，８月 14 日の 14:00 から，開会式と同じ会場で，プレゼンテーションボードと模型などを示しつつ，パワーポイントによって提案内容を示す形式で行われた。各チームの持ち時間は 40 分（うち発表 20 分，質疑応答 15 分，入れ替えなど５分）で，各チームの発表の後に，ディレクター，コーディネーター，チューター，ゲストクリティーク（忠州大学校都市工学部・教授１名，設計事務所主宰者１名）からの質疑応答が行われ，18:30 頃に終了した。その後，修了式が執り行われ，参加者には各チーム担当のチューターより修了証書が手渡された。続いて，最終パーティーが開かれて夜遅くまで親睦を深めた。

翌８月 15 日の午前中には，ワークショップの参加者全員が寮を退室した。

（３）各チームの提案内容

表４に，各チームの提案内容の概要を示す。

５．まとめ

一連の本報告では，2011 年 8 月 11 日～15 日に開催された「日韓国際都市・建築デザインワークショップ 2011」での活動内容を報告し，その成果を検証することを試みている。そのうち，本稿では，対象ワークショップの全体像を示すことを考え，ワークショップの概要や期間中の活動と提案内容の概要などを報告した。

謝辞　ワークショップへの参加にあたっては，国立忠州大学校のスタッフの皆様に大変お世話になりました。また，千葉大学大学院・教授 北原理雄先生，同・助教 郭東潤先生はじめ千葉大学からの参加者の皆様にも大変お世話になりました。深く感謝致します。

注

1) 類似の国際ワークショップへの参加については，例えば，次の文献などを参照。
梁珍榮，李丹，土屋洋平，朴知賢，郭東潤，北原理雄：韓国清州市における住民参加まちづくりに関する考察-清州国際建築デザインワークショップを通じて-，2009 年度日本建築学会関東支部研究発表会論文集 CD-R，pp. 397-400，2010. 3
2) 韓国でのまちづくりについては，例えば，次の文献などを参照。
郭東潤：韓国商業地域における「マウル・マンダルギ」に関する研究，日本建築学会技術報告集，第 29 号， pp. 285-288，2009. 2
3) 忠州大学校ホームページ，http://www.cjnu.ac.kr/index.html（参照 2011. 12）
4) 以下の記述は，主にワークショップ資料中の「Theme of International Urban and Architectural Design Workshop 2011」（コーディネーターの Lee 准教授の講演資料）を参考にした。
5) 関根孝，趙時英：韓国「在来市場」の発展方向-伝統的商業集積の活性化の途を探る，専修大学都市政策研究センター論文集，第４号，pp. 167-195，2008. 3
6) 韓国では，2000 年代に入ってから各地にアーケードが建設されたが，日本のように振興組合などの共有施設ではなく，自治体に所有権がある（韓国中小企業庁市場経営振興院・金永基氏による）。
7) ワークショップ資料より
8) 日本側のチューターは助言する程度なのに対し，韓国側のチューターは指導することが多かったようである。筆者（辻原）の場合は，ワークショップへの参加自体で初めてであり，また大学で都市計画分野の講義を担当しているわけではないため，11 日の段階では消極的参加に止まっていた。12 日以降，積極的な参加を目指したが，最終的には，要所要所で方向性を示そうとしたに過ぎない。他のチューターの様子を見ながら，見よう見まねでチューターの役割を担った。ただし，チームのメンバーの個性をできるだけ把握し，皆が役割分担しつつも，作業を行える様には努力した。しかし，最終発表会前日の混乱もあり，最終的にはチームの提案が若干拡散してしまい，反省点も多い。
9) 日本側と韓国側の教育プログラムの違いから生じる認識の違いによるところも大きいようであった。韓国側の設計演習などでは，比較的技術的な面に重点が置かれているようであった。

表４　各チームの提案内容の概要

	メンバー構成	対象市場名	市場の特徴	提案のテーマ	提案の特徴
チーム１	千葉 M1（男，女） 熊本 M1（女） 有明（男） 忠州５（男，女） 忠州４（男）	Gong-seol Market（ゴンソルシザン）	対象地区のほぼ中央に位置する。市場の東側が忠州川と接するが，市場の道路からは見えない。周辺の市場へアクセスポイントを持つ。アーケードがある。	RE;	川を市場全体の大きな休憩場所にする。今あるものをできるだけ壊さず，今足りないものを補う。ガラスブロックを用いて川へのアクセスポイントを創る。川には展示空間，劇場，カフェ設ける。川を有効に利用し，自然の価値や存在を感じられるようにする。
チーム２	千葉 M1（男２） 熊本４（女） 有明（女） 忠州５（男２） 忠州４（女）	Mu-hak Market（ムハクシザン）	市場の西側が忠州川に面している。市場へのアクセスは容易。近くに繁華街と小学校がある。主に食材を販売する店舗が多い。利用者の年齢層は高め。	Change the "Flow"	市場の中心にある駐車場を公園とし，休憩場所＋イベントスペース（フードフェスティバル）を設ける。アーケード横の建物の１階と２階をテラスやウッドデッキにして風の通り道を創り，２階には体験ができる農場を創る。アーケードの部分を車両通行止めにする。
チーム３	千葉 M2（男）・M1（女） 熊本４（女） 有明（女） 忠州５（男，女） 忠州４（女）	Pungmull Market（プンムルシザン）	農作物を売る定期市。他の市場と違って５日ごとに開かれる。川沿いにあり，四角い珍しい形の橋がある。市場が開かれない時は，駐車場と普通の道路になっている。	PUNGMUL 2407	１週間 24 時間，市場がない日も賑わう空間にしたい。アーケードのデザインを変えて明るさを確保する。広場ではミニプンムル市を開催する。自然を楽しめるようにリバーサイドデッキを設ける。四角い橋の上にはこども農場を設けて農業体験をしてもらう。
チーム４	千葉 D1（女）・M1（女） 熊本４（女） 忠州５（男２） 忠州４（男）	Gwan-ah-gol Market（クァンアゴルシザン）	かつて忠州城があった伝統地区にある。対象地区の一番端にある。主に家具が売られており，継続的に訪れる人が少ない。アーケードはない。	Create Town Ourselves! Do It Yourself! -Replant the name of the 'Youth'-	城下町であった歴史を現代の人に認識してもらう。商店街としての景観を一体化させるためにサインボードを統一する。DIY イベントを行って日常的に訪問者を呼び込む。忠州大学の学生が経営を担う仕組みを創る。学生が引き継ぐことで継続したまちづくりになる。
チーム５	千葉 M1（男２） 熊本４（女２） 忠州５（男２） 忠州４（女）	Jung-ang Market（ジュンアンシザン）	対象市場のうち，唯一建物内のある市場。若い人，中年の人，お年寄りが集まる交差点に面する。建物の２階には，料理専門学校や美容専門学校が入居している。	リノベーション	１階にオープンスペースやブックカフェを設けることで，お年寄りと若者のコミュニケーションを図る。伝統料理店に路地を取り入れて若者にも寄ってもらう。２階の専門学校に加えて，若者に教える場として伝統芸能教室を設ける。ミニコンサートホールも設ける。
チーム６	千葉 M1（男２，女） 熊本４（女） 忠州５（男，女） 忠州４（女）	Ja-yu Market（ザユシザン）	東西 400 メートルの最も長い市場。アーケードがある。道路は車がやっと離合できる幅員。主に衣料や雑貨などを売っているお店が多い。高齢者の利用者が多い。	Connection	客の立場に立って，「行きたくなる市場」を目指す。入口にインフォメーションマップを設置し，歩道をブロックごとに色分けする。空き店舗の多い２階にイベントスペースとオープンスペースを設ける。道路に橋を架けて２階部分でも行き来が可能にする。

*1：熊本県立大学環境共生学部　准教授・博士（工学）　Assoc. Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.
*2：熊本大学工学部　Kumamoto University
*3：有明工業高等専門学校建築学科　准教授・博士（工学）　Assoc. Prof., Ariake National College of Technology, Dr. Eng.